

図画工作科学習指導案

令和5年6月1日(木) 学習指導Ⅱ 第6学年2組(第1図工室) 指導者 貞永 瞳

【題材】わたし色の世界(絵に表す)

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	・三原色を混色して見付けたお気に入りの色を基に、混色した色合いのよさや、色のもつ効果を理解する力 (共(1)ア) ・三原色を混色して見付けたお気に入りの色を基に、表したい世界を表現するための構成を工夫する力 (A(2)イ)	・三原色を混色して見付けたお気に入りの色を基に、表したい世界の構成について考える力 (A(1)イ) ・三原色を混色して見付けたお気に入りの色を基に、自分のイメージや思いをもつ力 (共(1)イ)	・三原色を混色して様々な色をつくる活動に主体的に取り組み、自分が表したい世界を表現することを楽しみながら、よさや美しさを感じ取ろうとする態度
子どもの実態	・抽象的に絵に表す題材では、自分が表したいことの表現に向けて、筆の使い方やバランス、色の組合せや構成などを工夫できる。 ・混色した色合いのよさに気付いていないため、チューブの絵の具の色をそのまま用いることが多い。	・抽象的に絵に表す題材では、自他の作品の色や形を自分の経験に結び付けて鑑賞し、イメージや思いを広げられる。 ・絵や立体、工作に表す題材では、チューブの絵の具の色をそのまま用い、類似色の配色で表現することが多い。	・楽しみながら主体的に絵や立体、工作で表す活動に取り組める。 ・造形的な特徴を基に作品や活動をつくりだせるが、豊かな生活と結び付けてよさや美しさを感じ取ることに至らない。
価値	・本題材は、三原色を混色して見付けたお気に入りの「わたし色」を基に、ハ切の画用紙に自分の表したい世界を表現していく題材である。水彩絵の具は、色の組合せや量を変えて混色することで、様々な色をつくり出せる。本題材では、色材の三原色の絵の具を用いることで、濁りの少ない色をつくれるため、わずかな色合いの違いにも着目できる。わずかな色合いの違いに着目して見付けた「わたし色」の一色を基に、自分なりの世界を表していくことは、自分でつくった色を大切に、色を生かすための構成を考えられる。そのため、「わたし色」とその他の色の組合せや割合、形、大きさ、数、位置などの新たな構成を考える楽しさに気付くきっかけとなる。また、自分で色の組合せや量を調節して色をつくることや、つくった色のよさに気付くことで、自分で作り出したものを大切にしようとする意欲にもつながる。そして、自他の見付けた「わたし色」や構成の工夫の違いに気付くことができ、新たな意味や価値をつくり出せる。 ・三原色を混色して見付けたお気に入りの色を基に、表したい世界を表現する活動は、色のわずかな違いに着目するため、色合いや色のもつ効果を理解できる。 ・三原色を混色して見付けたお気に入りの色を基に、表したい世界を表現する活動は、お気に入りの色を基に主題を決めていくため、お気に入りの色とその他の色の組合せや割合、形、大きさ、数、位置などの構成を工夫できる。	・三原色を混色して見付けたお気に入りの色を基に、表したい世界を表現する活動は、お気に入りの色を中心に主題を決めていくため、お気に入りの色に合う構成について考えられる。 ・三原色を混色して見付けたお気に入りの色を基に、表したい世界を表現する活動は、色から感じたことや想像したことを自分の経験と結び付けるため、自分のイメージや思いをもてる。	・三原色を混色して様々な色をつくる活動は、色の組合せや量を変えることに伴う色の違いを実感できるため、楽しみながら主体的に取り組める。 ・見付けたお気に入りの色を基に表現する活動は、日常生活においても行っているため、自分の生活と結び付けながら、よさや美しさを感じ取ろうとすることができる。
見方・考え方	三原色を混色して見付けたお気に入りの色を基に、表現した自他の表したい世界を構成の視点で捉え、自分のイメージや思いをもちながら意味や価値をつくりだすこと。		
今後の学習	中学校の色彩の学習や平面構成、絵に表現する活動へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	三原色の組合せや量を変えながら混色してつくった様々な色から、混色による色合いのよさや色のもつ効果を理解し、見付けたお気に入りの色から感じたことや想像したことを基に自分のイメージや思いをもち、構成を工夫することで、自分が表したい世界を表現することを楽しめる。			
評価 規準	(①知・技) 三原色を混色した色から見付けたお気に入りの色を基に、混色による色合いや色のもつ効果を理解し、手や体全体の感覚を働かせながら表したい世界を表現するための構成を工夫している。 (②思・判・表) 三原色を混色した色から見付けたお気に入りの色を基に、自分のイメージや思いをもち、自分が表したい世界を表現するための構成を考えている。 (③主体的態度) 三原色の組合せや量を変えながら混色して様々な色をつくる活動や、お気に入りの色を基に、表したい世界を表現する活動を楽しもうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○三原色の組合せや量を変えて混色し、様々な色をつくり、お気に入りの色を見付ける。	○三原色の組合せや量を何度も変えて混色し、様々な色をつくれるように、900mm×1800mmのロール紙を用意し、互いの活動を見合いながら色づくりを試す機会を設定する。	◇三原色の組合せや量を変えて混色し、様々な色をつくることを繰り返し試している。 ＜行動③＞
	1	○見付けたお気に入りの色から感じたことや想像したことを基に、構成を試しながら、自分が表したい世界を考える。 学習のめあて 「わたし色」の世界を、構成を工夫しながら表現しよう	○感じたことや想像したことが、見付けた色や個人によって異なることに気付けるように、互いのイメージや思いを共有する機会を設定する。	◇見付けたお気に入りの色から感じたことや想像したことを基に、表したい世界のイメージや思いを記述している。 ＜振り返り②＞
ひろげあわす・	1	○見付けたお気に入りの色を基に、表したい世界を表現するための構成を考える。	○構成を何度も試せるように、色の組合せを確かめやすい幅2cm程度の短冊状の画用紙と、色の割合や形、大きさ、数、位置を確かめやすい32切の画用紙を十分に用意する。	◇見付けたお気に入りの色を基に、表したい世界を表現するための構成を記述している。 ＜振り返り②＞
	2	○見付けたお気に入りの色を基に、表したい世界を八切の画用紙に表現する。 (本時1／2時間目)	○自他の作品の構成の工夫に気付けるように、前時に試した作品の写真や活動の振り返りを共有し、自由に見られる環境を設定する。	◇自分が表したい世界の表現に向けて、構成を工夫している。 ＜行動・振り返り①＞
ふりかえる	1	○見付けたお気に入りの色を基に、表現した自他の表したい世界を構成の視点で鑑賞し、作品のよさや美しさを伝え合う。	○構成のよさや美しさに気付けるように、自由に見合える環境を設定し、鑑賞する時間を十分に確保する。	◇構成を工夫して表現した作品から、混色した色合いのよさや色のもつ効果を見付け、イメージや思いをもちながら、感じ取ったよさや美しさを記述している。 ＜振り返り①②③＞

本時の学習（４／６時間目）

ねらい 三原色を混色した色から見付けたお気に入りの色を基に、表したい世界を、構成を工夫しながら表現することができる。

評価項目 自分が表したい世界の表現に向けて、構成を工夫している。

<行動・振り返り①>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・ 前回は「わたし色」を中心とした構成を試したな。赤に黄色をたくさん混ぜた橙色は、さらに黄色っぽい橙色や青緑色と相性がよくて驚いたな。この色で楕円や曲線をかくと、優しい感じになったのだったな。 ・ 赤に黄色をたくさん混ぜた橙色と相性のよい色、楕円や曲線の構成で、懐かしくて優しい世界を表現したいな。 （目的意識）	○ 前時までに共有した、お気に入りの色とその他の色の組合せや割合、形、大きさ、数、位置などの構成という造形的な視点を想起できるように、前時の振り返りを共有し、見付けたお気に入りの色を基に、表したい世界を表現するための工夫を問いかける。 ○ お気に入りの色を基に表したい世界を表現する活動への期待を高められるように、本時で取り入れたい構成の工夫を問いかける。
めあて：構成の工夫をしながら「わたし色」の世界をかき進めよう	
2 構成を試しながら、表したい世界をかく。 ・ まずは「わたし色」をつくるぞ。わたしの「わたし色」は、赤に多めの黄色を混ぜればよかったのだったな。つくったら試しの紙に塗てみよう。 ・ 前回は「わたし色」の楕円を画用紙の右上にかいたな。楕円のやわらかい感じが懐かしくて優しい世界にぴったりだから、この構成を生かそう。 ・ ちょっと大きめに、三つの楕円をかいたけれど、もっと優しさが必要だな。次は黄色っぽい橙色で、三つの楕円をつなぐように、楕円の背面にぐにゃぐにゃした線をかくぞ。 ・ 橙色で曲線をかいたら全体的に黄色っぽくなったぞ。離して見ると、明るい世界になったように感じるな。懐かしくて優しい世界にするには、落ち着いた色を使ったり、意外な組み合わせの色で引き締めたりするとよさそうだな。前回、意外と相性がよかった青緑色を使ってみよう。 ・ 青緑色で全体に点をかいてみたら、楕円や曲線にまとまりがでて、思い出を振り返るような懐かしい感じになったぞ。前回、似ている「わたし色」を選んでいた友達は、どんな構成をしているのだろう。見に行ってみよう。 ・ 友達は「わたし色」で長くて細い直線を数本かいて画面を区切り、それぞれの面を、異なる色の細かい点でかいていておもしろかったな。使う色の割合が揃っていて、黄色や緑で構成された、自然豊かな世界に見えたな。 ・ 「わたし色」に合う色の組合せや形、大きさ、数、位置を工夫して表現できたよ。でも、自分がイメージした懐かしくて優しい世界を完成させるためには、色の割合や線の使い方をもっと考えていかないとイケないな。 （目的を達成した意識）	○ お気に入りの色を調整したり、構成を試したりできるように、色合いや他の色との組合せを確かめやすい幅2cm程度の短冊状の画用紙と、色の割合や形、大きさ、数、位置を確かめやすい32切の画用紙を、図工室の中心に十分用意し、自由に使ってよいことを助言する。 ○ 前時に試した構成を生かせるように、前時の振り返りの写真を見返し、自分のイメージや思いに最も近いものを問いかける。 ○ 色の組合せや形、大きさ、位置などの構成を確かめながら表現できるように、表したい世界を表現するために不足していることを問いかける。 ○ 本時に取り入れた構成の工夫を客観的に捉え、自分のイメージや思いの実現を確かめながら表現できるように、作品から離れて鑑賞するよう促し、感じたことを問いかける。 ○ お気に入りの色を中心に活動を進められるように、お気に入りの色に合う構成を何度も試している子どもや、これまでに経験のない構成に挑戦している子どもを称賛し、友達の作品や活動を見るよう促す。 ○ 自分では思い付かなかった新たな構成の工夫に気付けるように、友達の作品や活動から見付けたお気に入りの色や、表したい世界のイメージや思いを問いかける。 ○ 自分の作品の達成度を自覚できるように、初めにもった自分のイメージや思いに足りていない表現について問いかける。
3 本時の学習の振り返りをする。 ・ 今日は、前回の構成の工夫を生かして表現できたよ。次回は色の割合を考えたり、線で区切ったりして、懐かしくて優しい世界を完成させたいな。	○ 次時の見通しをもてるように、本時に取り入れた構成や表現できたイメージや思い、次回取り組みたいことを記述した文章と、つくった色や取り入れた構成を記録した写真を提出するよう促す。